iMed
International Medical Department

国際医療部だより

05
2021

新部長就任のご挨拶

国際医療部
部長　中島 直樹

2021年4月より、国際医療部の新しい部長になりました中島直樹です。2015年に国際医療部を創生された清水周次・初代部長の後任として大変重要な役割を担うこととなりました。身の引き締まる思いです。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言から始まり、今日にいたるまで世界中の国際活動は大きく制限されました。国際医療部の3つのセンターの活動も一部は停滞を余儀なくされましたが、逆にコロナ禍のために、むしろ実績が伸びた活動もあります。例えば、アジア遠隔医療開発センターはこれまでの遠隔医療教育の活動が認められ、国内外の多くの各種学会や会議のリモート開催を支援し、感謝されました。また、国際診療支援センターでは海外から来日する患者さんは激減したものの、国内の在住外国人患者さんに対する通訳のサービス件数を中心に合計の業務量はむしろ増えました。病気になっても母国に帰られず当院を受診される方が増えたこともあります。さらに海外交流センターでは、好評の教職員の英語研修をコロナ禍のためにリモート開催で少人数化して回数を増やし、TOEIC対策クラスなどその目的の多様化もできました。

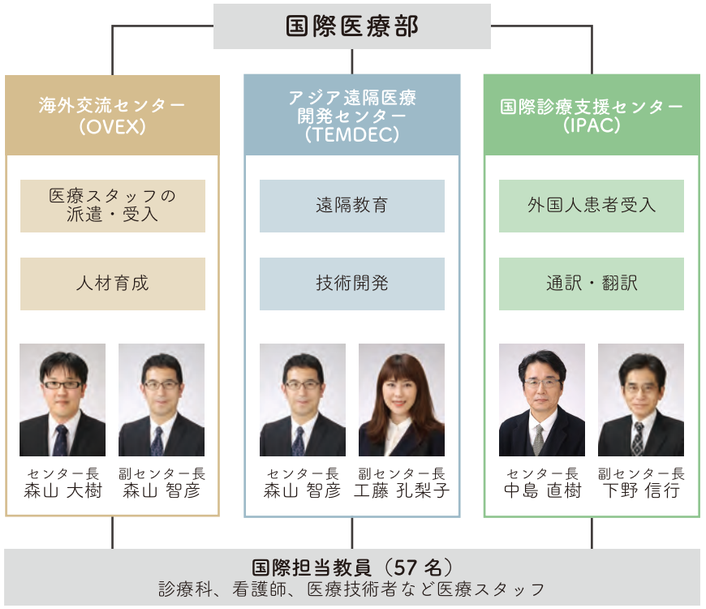
このような時期だからこそできるたくさんの新しい経験をさせていただき、さらにスキルアップをして、withコロナ時代での九州大学病院の国際化を推進したいと考えております。これからもご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

国際医療部とは

国際医療部はアジアをはじめ世界における国際化拠点として医療・教育・研究のすべてにおいて国際・社会貢献を実現します。

組織体制

国際医療部は、国際交流促進担当の「海外交流センター」、国際遠隔医療教育ネットワーク構築担当の「アジア遠隔医療開発センター」、海外や国内の外国人患者受け入れ担当の「国際診療支援センター」を統括します。部長および副部長（専任准教授）を中心として、各センターには全員が英語のできるスタッフを配置するとともに、各診療科から選出された国際担当教員などと一緒に協力体制を築きます。



TEMDEC
Telemedicine Development Center of Asia

アジア遠隔医療開発センター

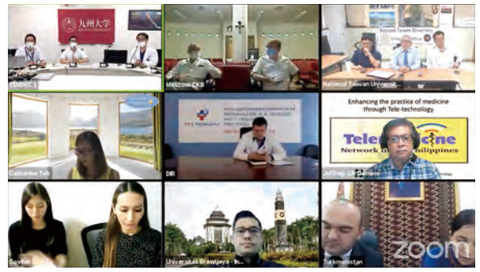
ＴＥＬ：092-642-5014
ＷＥＢ：http://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp
ＭＡＩＬ：temdec@med.kyushu-u.ac.jp

国際テレカンファレンスのご紹介

世界中に張り巡らされたインターネットとICT技術を駆使し、諸外国の医療機関との間で様々な分野の遠隔医療教育を行うことを目的として、2008年にアジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）が設立されました。これまでに77ヶ国1129施設と1352回の国際イベントを開催してきましたが、オンラインによる国際間の情報共有は、コロナ禍を通じてその重要性を増してきています。昨年3月には新型コロナウイルスをテーマにした国際プログラムを企画し、3800名を超す参加者と感染対策の知識と経験を共有しました。内視鏡や外科、神経内科、小児外科、歯科などは定期的に国際テレカンファレンスを開催していますが、それ以外の分野での開催を希望される方は気軽にご相談下さい。喜んでサポートさせていただきますので、是非、共同研究や国際教育などにご活用ください。

Q-AOS シンポジウム

当センターは医療以外の分野へも支援を拡大しています。九州大学アジア・オセアニア研究教育機構（Q-AOS）では学際的な研究教育活動を行っており、国際医療部は本機構の「医療・健康クラスター」を統括しています。昨年9月にはシンポジウム「感染症と生きる：コロナから学ぶ持続可能な社会とは」を開催し、医療のみならず、環境、都市、経済といった様々な観点から感染症を捉え、国際的な情報共有と議論を行いました。



COVID-19 救急カンファレンス

アジア遠隔医療開発センター 2020年度報告

2020 年度推進プロジェクト

・ロシアにおける健診促進プロジェクト
・ミャンマーの医療水準均霑化を目指した人材育成事業
・ブータンへの遠隔医療教育セミナー
・アジア先端医療ネットワーク（APAN）医療ワーキンググループにおける多分野での遠隔医療教育プログラムの開催

新規接続施設　41か国317施設
イベント数　171回

国際、国内、院内での様々な支援

・学会、研究会のオンライン開催への技術支援
6月　医療情報学会　春期大会
8月　日本膵切研究会
10月　日本医療・病院管理学会　など18件

・ライブ配信
9月　ロシア内視鏡ライブデモ
10月　インドネシアへの泌尿器ライブ　など5件

・オンラインでの博士課程学位審査　10件

ブータンとの医療ウェビナー

日本膵切研究会

海外交流センター

ＴＥＬ：092-642-4439
ＷＥＢ：http://plaza.umin.ac.jp/ovex
ＭＡＩＬ：allsec-ovex@med.kyushu-u.ac.jp

丸紅株式会社との医療・ヘルスケア分野における海外での事業展開に関する包括的な戦略提携

厚生労働省委託案件として、丸紅株式会社と共に日本の健診および医療技術のロシアでの普及活動支援に取り組んでいます。

2020年度はCOVID-19の影響により研修受入はできませんでしたが、ロシア人医療者や市民に向けてオンライン研修を3回開催しました。

グローバル感染症センター、消化管内科、循環器内科、乳腺外科、産科婦人科、泌尿器科、脳血管内科、キャンパスライフ・健康支援センターにご協力いただきました。

乳腺外科

グローバル感染症センター

EJEP-HRDP人材育成事業（エジプト・日本教育パートナーシップ）OJT研修

エジプトと日本政府との間で締結され、エジプトの医師と看護師の知識と技能の向上を通じて、医療と保険サービスのシステムの改善を目的としています。

医師2名、歯科医師1名を半年から1年受入れました。厚生労働省より外国人臨床修練の許可を得て、指導医のもと診療を伴う研修を行いました。

外科、顔面口腔外科、光学医療診療部にご指導いただきました。

外科

顔面口腔外科

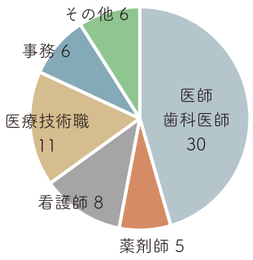
光学医療診療部

72名に向けて英語研修を開催/ HPのリニューアル

英語研修

院内教職員向けに国際化のニーズに対応可能な人材育成サポートをしています。毎年英語研修や医療通訳学習会（英語・中国語）を実施しています。2020年度はCOVID-19の影響により、オンラインにて英語研修を開催しました。個別クラス8クラス、部署別英語研修1クラスを開講し、72名にご参加いただきました。“今後も英語学習を続けていきたい”“プレゼンテーションの仕方の練習ができた”等、受講者からは好意的な感想を多数いただきました。

2021年度も募集をしますので、ぜひご参加ください。募集詳細はメールや海外交流センターHPでご案内します。



HP リニューアル

海外派遣や外国人医療スタッフの受入などの国際的人事交流の実績、サポート内容を分かりやすく掲載しています。院内スタッフのみなさまにも活用いただける内容になっております。COVID-19の状況が落ち着けば海外からの受入や海外施設の訪問を予定しているので、どうしたら良いか？等の問い合わせも随時受け付けております。

国際診療支援センター

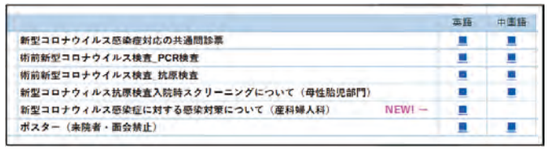
ＴＥＬ：092-642-4231
ＷＥＢ：http://plaza.umin.ac.jp/ipac
ＭＡＩＬ：bynkokusai@jimu.kyushu-u.ac.jp

院内ホームページ毎月更新
院内HP→ その他サービス→「外国人患者の受診について」

・各種フロー
（私費、海外保険、重症・死亡時、国際搬送等）
・翻訳文書
（同意書・問診・新型コロナウィルス関連文書等）

外国人患者対応時ご活用ください

（例）新型コロナウィルス関連文書　英語・中国語版



	英語	中国語
新型コロナウイルス感染症対応の共通問診票	■	■
術前新型コロナウイルス検査_PCR検査	■	■
術前新型コロナウイルス検査_抗原検査	■	■
新型コロナウィルス抗原検査入院時スクリーニングについて（母性胎児部門）	■	■
新型コロナウィルス感染症に対する感染対策について（産科婦人科） NEW! →	■	
ポスター（来院者・面会禁止）	■	■

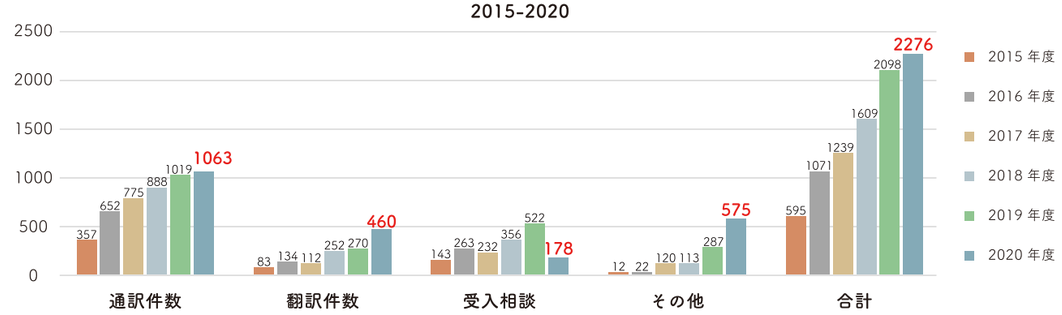
～医師の皆様～
「外国人診療に関するアンケート」へのご協力のお願い

当センターの支援体制強化のため、外国人診療と通訳に関するオンラインアンケートをusersメールで定期的に配信します。これまで外国人診療に関わった事のある医師の皆様におかれましては、アンケート調査へのご協力何卒宜しくお願い申し上げます。右のQRコードからもご回答頂けます。

院内の通訳・翻訳等の総実績

コロナ禍で「受入相談」は減りましたが、「業務実績合計」は増加し続けています。
・業務総実績2276件（通訳1063件、翻訳460件、受入相談178件、その他575件）
・支援外国人患者出身国総数：45か国
・国立大学病院国際医療連携ネットワークで13か国、36件の外国人患者からの相談対応、うち13名を受入。（他院紹介2件）

IPAC 業務実績　推移
2015-2020



編集後記

国際医療部　副部長　森山 智彦

前回の国際医療部だよりを発行した1年前は、未知のウイルスによるパンデミックに人類がまだ右往左往していた頃でした。その後、多くの研究やワクチン開発が進み、世の中は少しずつ良い方向へ変わりつつありますが、国境をまたいだ自由な往来が再開されるまでにはまだまだ時間がかかりそうです。ただ、この1年間で我々にとって世界はさらに身近になったような気がします。多くの人々が遠隔会議システムの利便性を認識し、日常的に海外と接続した遠隔会議が実施され、オンラインでの学術集会には世界中から参加者が集うようになりました。2020年度の国際医療部の活動実績は、海外との人材交流を除き例年と変わらず、職員向け英会話クラスはこれまでよりも多くの方が参加し、出席率も例年以上に高い数値で推移しました。一刻も早いパンデミックの収束はもちろんですが、これらの経験が当院の国際化を更に加速させていくことを願っています。

2021年度国際医療部だより 2021年5月発行　九州大学病院 国際医療部,福岡市東区馬出3-1-1
WEB：http://plaza.umin.ac.jp/imed, TEL：092-641-1151, FAX：092-642-5008, MAIL：ibssyomu@jimu.kyushu-u.ac.jp